

令和元年度



学校評価



秋田県立雄勝高等学校

【学校評議員】

高橋 讓 (元PTA会長)
菅 由恵 (会社員)
阿部 浩美 (トータルサポートスクールリード学舎代表)
高橋 清隆 (雄勝中学校長)

【学校関係者評価委員】

高嶋雄一郎 (PTA会長)
菅 善徳 (PTA副会長)
小野垣昭治 (元PTA会長)

【第三者評価委員】

小坂 広美 (雄勝地域振興局福祉環境部企画福祉課主幹)

一 目 次 一

学校評議員、評価委員による評価・提言	3	
学校評価	4	5
1年部	6	7
2年部	8	9
3年部	10	11
総務部	12	13
教務部	14	15
生徒指導部	16	17
進路指導部	18	19
特別活動部	20	21
保健部	22	23
図書視聴覚部		24
地域連携ボランティア活動状況		

学校評議員、学校評価委員による評価・提言

・生徒の顔つきや先生・生徒の距離が変わったのではないか。先生たちだけでなく、生徒も「雄勝高校最後」という意識があったのではないか。生徒指導上の問題について指導が難しかったかもしれないが、心配しすぎないで見守ってやればいいのではないか。

・学校としては就職させるのが目的かもしれないが、企業にとっては持続させることが大事である。一人前にするために5年間の間お金をかけて育てているが、3年くらいで辞められてしまうと大変ショックであり、そうすると新入社員にお金をかけることをためらうことになる。このことが分かるような指導をしてほしい。

・先日村岡元議員の葬儀での菅官房長官の弔辞の中で、菅さんが政治家になった頃に「辛抱（耐えて乗り越える）」「忍耐（自分に不都合なことをされても逃げない）」「我慢強さ（辛いことに慣れること）」と言われたという話があった。全部一緒のようにも思えるが、辞書を引いてみるとそれぞれ少し表現が違う。この3つの言葉はいじめにせよ勉強にせよ何についてでもいえることだと思った。これを叶えるような指導を先生たちにはやってほしい。今以上に人間味のある教育を行ってほしい。

・先生達の粘り強さに敬服する。生徒たちに身近な立場で親身になって指導している成果が現れているのではないか。雄勝高校の生徒と接する機会があるが、学校外でも生徒指導の良さが垣間見える。例えば「おしら様の枝垂れ桜」のボランティア活動で、挨拶が大変良かった。自衛隊演奏会での雄勝高校生による校歌も、子どもたちの気持ちのこもった声があった。学校祭でも目の輝いていた生徒の存在を感じた。子どもたちにとって楽しい学校、先生たちにとっても楽しい学校なのだろうと思った。

・現在雄勝小中が連携行事をやっている。来年度雄勝校になった際には、小中高で何か連携してできればと思う。おがち保育園の子どもたちも含めると、雄勝地域に500名程子どもがいる。雄勝の子育て7か条を現在学校運営協議会のメンバーで検討しており、情報発信できればと考えている。

・自分の子どもがいた時も非常に熱心に指導していただいた。生徒数の激減で教職員も大変難儀されている様子である。創意工夫でもってやらなければ容易でない状況なのだと感じている。生徒たちの負担にならないような活動を行っているが、今後ともお願いしたい。

・生徒が少ないからこそ、生徒1人1人に目を配れる学校でもある。文化祭でも生徒の顔が生き活きとして活動的だった。変わりなくやっていることを嬉しく感じている。

・校歌を何とか残せないか。

・グランドゴルフなど地域と密着した活動も、地元住民も生徒さんたちと活動できて嬉しかったのだと思う。地域と学校とのつながりになる良い行事ではないか。すべて生徒のためと頑張ってもらいたい。

・授業を拝見させていただいた。ユニバーサルデザインを導入されたことも分かり、教師と先生の距離感の良さを感じた。先生達の表情も良くなっていると感じた。

・アンケートを見ると保護者からの印象も良くなった様子である。教職員が同じ方向に向かって、手法を共有化して進め成果をあげている点は、組織運営上もすばらしい。今後も継続してほしい。ただ、今後活動が停滞する時期がくるかもしれないので、達成度を図るような指標があるとモチベーションが保たれるのではないか。

・WISCの読み解き方も工夫がいるのかもしれない。生徒の特性に合わせて、専門家の援助のもと手法の検討が必要かと思う。市民や県民に雄勝高校の良さを広く知らせるように、公開研究会などを設けてほしい。

令和元年度学校評価

評価領域	1年部
------	-----

重点目標	(1) 規律ある生活習慣の確立と、望ましい人間関係の構築 (2) 自ら学ぶ態度の育成と基礎学力の定着 (3) 進路実現に向けた意識を芽生えさせる	P
現 状	(1) 保護者の協力もあり、ほぼ全員皆勤である。小さなトラブルはあるものの、素直で心優しい生徒が多く、男女の分け隔てなく、仲良く助け合う場面を多く見かけるため豊かな人間性の醸成が少しずつ形成されている。 (2) 基礎学力が低い生徒が多いものの、学ぼうとする意欲は高い。基礎学力の定着については週末課題の添削や放課後補習を實踐している。課題提出ができない生徒の対応に苦慮している。 (3) CL、LHR、面談や機に応じた情報提供、「スタート新入生のための生徒理解調査」で自己の特性を理解させるなど実践中である。	
具体的な目標	(1) 健全なる心身の育成 (2) 当たり前前を当たり前前にする (3) 様々な経験を積むと同時に、情報収集能力から職業観の発芽を目指す	
目標達成のための方策	(1) ①保護者との連携を密にし、無断欠席の防止、明るい挨拶、正しい整容、ベル着、声かけ等による提出期限の厳守、私物の管理等を徹底させる。 ②授業や行事など様々な場面を通し、自ら考え行動し、他人を思いやる心を育み、品性の陶冶を図らせる。 (2) ①授業に集中して取り組ませ、家庭での学習習慣をつけさせる。 ②朝学習等で読書の習慣を身に付けさせ、補習、学年部の週末課題などを通し、全体的に学習成績のレベルアップを図る。 (3) ①LHR、総合的な探究の時間、地域、面談などを通し、生徒が主体的に進路学習できるようにさせる。 ②積極的なボランティア活動への参加で、職業観を育成させるとともに、地域住民との交流を通し、コミュニケーション能力を養成させる。	
具体的な取組状況	(1) 連絡事項は口頭での説明のみならず、ホワイトボードに記入し、メモを取らせ、可視化できるようにしている。提出物が出せない場合は保護者に連絡して協力を求めた。また、日々の声かけで明るい挨拶、正しい整容を意識させている。 (2) 課題プリントや自学ノートを毎日課し、提出できない生徒がいれば、居残り学習をさせ、放課後補習、長期休みの全員補習も行っている。	

	(3) LHRやCL、地域、進路ガイダンス、AIU訪問などで様々な情報提供と体験学習を実施している。	D
達成状況	(1) 明るく元気な生徒が多く、お互いを尊重し支え合い、自ら進んで働こうとする姿勢が見られ義務教育時代より出席率が高い。 (2) 保護者の協力があり、課題を全員提出出来るようになってきた。わからないことがあれば、友人や教職員に聞きに行ったり、お互いに教え合ったりする様子が見られる。 (3) 生徒の基礎学力の向上と様々な体験を基に自分が将来就きたい職業への興味関心が芽生えてきている。	



自己評価	(評価)	(根拠)	C
	A	(1) 大きな声で明るく挨拶ができる生徒がほとんどであり、日々随所にお互いが協力し合う場面が見られる。年末の学年集会でのアンケートによれば入学満足度が85%であり、整容面等でも特に問題はない。 (満足17 普通3 後悔0) (2) 家庭での学習習慣が出来てきたため、入学当初よりも学業に取り組む姿勢や成績が向上している。また小学校からの「学び直し」でわかる喜びを体得させることができた。 (3) 進路に対する意識が芽生えているが、具体性がない生徒も多々存在する。	

↑
評価基準
↓

A：具体的な活動がなされ目標を達成できた
B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない



学校関係者評価と意見	(評価)	(意見)	C
	A	・先生方の献身的な取組の成果により生徒の意識が向上した。今後も生徒からの声に耳を傾けてほしい。 ・生徒の環境因子に着目する取組を継続してもらいたい。	



自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	今後も生徒の声に耳を傾け、粘り強い指導をするとともに、生徒の特性や環境因子を分析し、情報を共有した共通理解のもとで、個に応じた指導を展開する。また、体験学習等を通して進路実現に向けて具体性を持たせる。	A
-----------------------	--	---

評価領域	2年部
------	-----

重点目標	(1) 自律・自立した生活習慣の確立 (2) 基礎学力の定着と進路目標の設定 (3) 集団生活における望ましい人間関係の構築
------	--

現 状	(1) 教員の指示に従おうとする姿勢は良好であるが、主体的に計画立てて物事を進める習慣が未熟である。 (2) 一年次からすると学習習慣は身に付きつつあるが、定着率は未だ不確かである。進路についても自己理解の不足から現実的な進路から乖離している者もいる。 (3) 若干名を除き、集団生活において協調性をもち、一人一人が主役という雰囲気でもっており、順調に成長している。
-----	---

具体的な目標	(1) ①正しい整容、明るい挨拶、適切な言葉遣いを身に付けさせる ②提出物の期限厳守など社会に通用するルールを徹底させる (2) ①アウトプットを意識させ、確かな学力を定着させる ②自己の特性や適性を理解させ、現実的な進路目標を設定させる (3) ①他を理解する態度を身に付け、良好な人間関係を築かせる ②集団における自分の立場と役割を理解させて、判断、遂行させる
--------	---

目標達成のための方策	(1) 毎日の授業やホームルーム活動、学校生活を通して指導する (2) 課題提出や定期考査への取り組みを通して指導する (3) クラスの諸活動や修学旅行等の学校行事を通して指導する
------------	--

具体的な取組状況	(1) ①朝のSHRの時に整容を観察し、必要時に指導した。 ②明確な理由が無く提出物を出さない場合は居残りをさせて取り組ませた。 (2) ①授業や補習でアウトプットを意識させる取り組みを行った。 ②インターンシップ活動を通じて職業の適性を実感させた。 (3) ①学年集会や授業中に諭したり、個人面談を通じて指導した。 ②学校行事の活動を通じて自分の立場や役割を考えさせた。
----------	---

達成状況	(1) 限られた生徒だが、未だに提出期限を守れなかったり、不完全な状態で提出する生徒がいる。 (2) 大半の生徒が学習方法に改善が見受けられた。 (3) 若干名の生徒が見通しを立てて行動することができない。
------	---

P

D

自己評価	(評価)	(根拠)	C
	B	固定化されてはいるが、一部の提出物が期限を過ぎたり、内容が不完全のまま提出しようとしている。また、見通しを立てて行動することができず、場当たりの対応で周囲に誤解を与えるような事例もあった。生徒の特性に応じた指導方法を現在も模索中である。	

↑ 評価基準
↓

A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない



学校関係者評価と意見	(評価)	(意見)	C
	A	・ 生徒数が少ないので、生徒の負担にならない行事活動をお願いします。	
	B	・ 少人数のメリットを活かし、生徒の特性に合わせた指導や動機付けを期待する。	
	A	・ 生徒の環境因子に着目した取り組みを継続する。	



自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<p>これまでも生徒の特性について研修したり、授業やLHRでも考えられる手立てを尽くしてきたが、まだ効果が現れない生徒もいるので、研修等を継続し、指導方法を探りたい。次年度は、保護者からも協力を得ながら、生徒の希望進路の達成を目指して取り組みたい。</p>	A
-----------------------	--	---

評価領域	3年部
------	-----

重点目標	(1) 望ましい生活習慣と学習習慣の確立 (2) 希望進路の実現 (3) 良好な人間関係の構築	P
------	---	---

現 状	(1) 今年度はそれほどでもないが、昨年度は精神的に不安定な生徒が多く出席状況がままならない生徒が多かった。また、家庭学習への取り組みや帰宅後の時間の使い方の工夫が悪い生徒が多い。 (2) 進路に対する認識が甘く、現実と希望がかけ離れている生徒も多い。また、進路実現するための現状把握と努力が不十分である。 (3) 生徒は概ね落ち着いているが、時折不適切な言動や行動をする生徒がみられる。
-----	--

具体的な目標	(1) 自己管理と家庭学習への取り組みを徹底させる。 (2) 自己の適性を理解させ、自ら考え判断する能力や社会人として必要な知識・ルール・マナーを習得させる。 (3) お互いを認め合う態度や思いやりある言動を身につけさせ、自分の役割を遂行させる。
--------	---

目標達成のための方策	(1) 授業・HR活動・学年集会・課外活動を通し、生徒個々の課題について個別指導する。 (2) 授業・課題の提出・定期考査への取り組みについて、教科担任と学年部が協力して指導する。 (3) 学校生活でのこまめな声かけ・個人面談を通して指導する。
------------	--

具体的な取組状況	進路指導を中心に、生徒個々の課題について、学年部職員が情報を共有しながら個別指導を中心に取り組んだ。特に、自己分析ができない生徒に対しては、生徒の適正を見極め、面談やアドバイスをを行いサポートに努めた。	D
達成状況	生活習慣の確立と進路希望の実現は達成できたが、良好な人間関係の構築については、不適切な言動や行動から大きなトラブルとなった。	

自己評価	(評価)	(根拠)	C
	B	懸念されていた不適切な言動や行動をする生徒に対して、表面上はとり繕ってはいるが、お互いを認め合う態度や他を思いやる気持ちを持たせることができていないと考える。社会に出てからも心配される。	

↑
評価基準
↓

A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者 評価と意見	(評価) B	(意見) <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒アンケートにおいて、1・2年生と比較しシビアな回答となっている。8項目中Cが4項目である。 ・ 外部関係者の協力も得ながら関わっていける体制作りが必要。 ・ 生徒の環境因子に着目する取り組みを継続してほしい。 	C
------------------------	---------------	--	----------



自己評価及び 学校関係者評価 に基づいた 改善策	生徒の個性は認めつつも、特定の固定されたグループに縛られないような活動を1年次の頃から多く取り入れ、他を認め、思いやれる集団形成をしていく必要がある。	A
---	---	----------

評価領域	総務部
------	-----

重点目標	(1) 儀式・行事等の円滑な運営と実施 (2) P T A活動の充実 (3) 地域校に向けての事業の企画と運営	P
現 状	(1) 生徒、職員が減少する中、これまでと同じように儀式や行事を遂行するにあたり、準備や役係で一人当たりの業務負担が増えている。 (2) P T A活動への保護者の参加率が低く、二年生からは保護者全員が役付の会員になってもらっている。若干、解消傾向の兆しがあるように感じられる。 (3) 重要性の高い事項は準備が進んでいる。	
具体的な目標	(1) 校内各分掌との連携を深める (2) 保護者との連携を図り、県南P T A交流大会の充実に努める (3) 「雄勝高校を語る会」の企画と運営、地域校への移行準備を進める	
目標達成のための方策	(1) 諸活動において、教員間の進捗状況等の情報共有がしっかりとできるように努める (2) 「eメッセージ」を活用した情報発信の機会を多くする (3) 校内外との連絡調整をしっかりと行い、予定されていることを確実に遂行する	

具体的な取組状況	(1) 今年度は校外で行われる大きな事業が予定されていたため、全教員を総務部員として配置していただき業務にあたった。 (2) 県南地区P T A交流大会では、早めの案内をすることで、少ない人員ながらも保護者と教職員で協力して任務を遂行した。学校祭のP T A屋台では、早めに案内と活動内容を見直して計画したことで予想以上の多くの保護者からご協力をいただいた。 (3) 「雄勝高校を語る会」の業務を通じて、本校に関わる多くの個人や団体に地域校へ変わる旨を内外に広く周知した。	D
達成状況	(1) 心配された人員不足による業務の滞り等は杞憂となり、成功裏に終わられた。 (2) 特に県南地区P T A交流大会では、これまでの三分の一の人員で、大きな業務を完遂できた。 (3) 地域校への自覚と心構えを実感を持って深めることができた。	

自己評価	(評価) A	(根拠) 管理職からの適切な指導のもと、少数精鋭で2つの大仕事を完遂できた。今後、地域校として業務をする上で貴重な経験ができた。	C
------	-----------	---	---

↑
評価基準
↓

A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない



学校関係者評価と意見	(評価)	(意見)	C
	A	・活動の情報が少ないので評価し難いので、活動内容がわかる情報を提供して欲しい。	
	A	・更にPTA連携を強化するため、早めの情報提供を期待する。	
A	・各種事業の趣旨(肝)を中心にしたスケジュール管理が良かった。		



自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	次年度は開校式が予定されている。更に少ない人員で大きな規模の事業に取り組まねばならない。また、本校と連携をした事業も予定されているので、今年度の経験を活かし、早めの情報共有を心掛けて任務を遂行したい。	A
-----------------------	--	---

評価領域	教務部
------	-----

重点目標	(1) 生徒に確かな学力を身に付けさせる (2) 教育課程の実践と課題の発見に努める (3) 職員研修を充実させる (4) 教務関係事項を安定的に遂行する	P
現 状	(1) 学習内容の定着していない、支援を要する生徒など、課題を抱えている生徒が多く入学してくる現状の中で、社会人として必要とされる知識、技能の修得に向け、生徒個々の課題に対応できる体制を模索している状況である。生徒の確かな資質向上に向け、教育課程の検討や授業改善等の教員の研修を進めていくことが重要と考えている。 (2) 日々の学校運営がスムーズに遂行できるよう役割分担を整えており、業務は順調に遂行されている。	
具体的な目標	(1) 基礎的な学力と思考力の養成 (2) 基礎基本の充実を目指した教育課程の研究 (3) 授業力向上に向けた職員研修の充実 (4) 学習環境の整備	
目標達成のための方策	(1) 少人数編成を活かした授業の工夫 (2) 将来に向けた教育課程の評価と課題の発見 (3) 研修活動の充実、各種研修の情報提供と参加促進 (4) 授業における生徒指導の徹底、欠点克服のための指導の充実、授業時間の確保、調整	
具体的な取組状況	チームティーチングや習熟度別学習による少人数のメリットを活かし、生徒個々の個性を把握した授業展開を行った。さらに学力向上に向け、家庭学習のための課題設定や放課後補習等を実施した。学校設定教科「地域」を教育課程に組み込み、地域を支える人材作りに向け取組めた。また基礎学力を重視するA科目を取り入れた教育課程を編成した。職員研修会や研究授業を通し、ユニバーサルデザインの手法を取り入れ、学習に困難を抱える生徒への対応と情報の共有により、生徒一人ひとりに対応した指導を行っている。	D
達成状況	それぞれ個性を持った生徒が入学してくる中で、中学校時に不登校傾向があった生徒の欠席が改善されている。週末課題の提出状況等も向上しており、生徒たちが学力向上に向けて学校生活を有意義に過ごせている状況が見られる。学校設定科目「地域」の授業では地域の方々の力を活用し、講話や体験的な学習を重ねることで、地域に対する意識を向上させることができた。来年度開校の地域校でも、本校の役割を担った教育活動を継続し、すすめていきたい。	D

自己評価	(評価) B	(根拠) 授業改善が継続的、組織的に行われており、生徒の学力向上に向け工夫がされている。本校の特色を地域校へ引き継ぐ土台を固めることができた。今後、学年部、進路指導部と連携し、基礎学力向上に向けた授業改善を継続的にそして組織的に取り組む。また学習内容と評価については今後、学年部と協議しながら実態に合うように工夫していきたい。さらに、地域に根ざした学校作りのために地域の教育力を活用した取組を引き続き実践したい。	C
------	---------------	---	---

↑
評価基準
↓

- A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
 B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
 C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	(評価) A	(意見) ・ 生徒数が少ないならではの特長を活かした、一人一人への目配り指導をお願いしたい。達成状況からも成果が見られるので次年度へ向けても本校のメリットを活かした取組に期待する。地域連携については、分野のバランスをとりながら、地域の方々をサポートと位置づけられるよう今後も取り組んでほしい。	C
------------	---------------	---	---



自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<p>少人数という本校のメリットを活かした、課題を抱えている生徒に対する授業改善の取組を評価していただいた。今後も生徒個々の理解と学習活動の評価のあり方について、組織的かつ継続的に進め、授業改善の基礎としていきたい。地域と連携した学習活動では地域の方々からサポートをしていただくだけでなく、生徒自ら地域に関わっていく活動を教科「地域」と総合的な探究(学習)の時間などの中で進めていく。</p>		A
-----------------------	--	--	---

評価領域	生徒指導部
------	-------

重点目標	基本的な生活習慣を身に付けさせるとともに、他を思いやる豊かな心と態度の育成に努める。	P
現状	注意や指導に対して反抗的な態度をとる者もなく、学校生活を楽しんでいる生徒がほとんどである。ただ、日常生活の中でも支援を必要とする生徒が年々増えている現状も事実である。そうした生徒の日々の様子を見ながら学年部・担任を中心とした早期の対応が、現在の落ち着いた学校生活の要因と考える。今後も職員全員で生徒一人一人の行動を注意深く見守ることが必要と考える。	
具体的な目標	(1) 挨拶・整容指導の充実 (2) 学校における言動や携帯電話に関する指導の充実	
目標達成のための方策	(1) 挨拶の励行や整容指導の充実さらには日々の生活での時間厳守の行動を意識させることにより、基本的な生活習慣の形成を図る。 (2) 「自分がされて嫌な行為は絶対に他人に対して行わない。」ということを常に呼び掛けて、日常生活における言動を振り返らせるとともに、SNSを中心とした携帯電話による他人を誹謗中傷するような行為を絶対に起こさせないようにする。	
具体的な取組状況	(1) 各学期の始めと卒業式前に「整容検査」を行っている。ほとんどの生徒が指導には素直に応じてくれている。それ以外でも、日常生活の中で学年部を中心に適宜指導を行っている。 (2) 入学説明会で新入生・保護者に対して「インターネット・ケータイ・スマホに関する講習会」を実施し、新年度早々には全校生徒を対象とした「ケータイ安全教室」を実施している。また、卒業式後の「生徒指導部からの話」の中には、毎回、イジメやSNSの使用上の注意、他人への思いやり等の話を盛り込むようにしている。	D
達成状況	(1) 整容に関しては、ほとんどの生徒が指導に応じてくれている。挨拶もほぼ定着している。 (2) 2学期後半、3年生の男子生徒、女子生徒それぞれから「イジメ」についての訴えが寄せられた。男子生徒については、双方の話を聞き、注意を促すことで終息したが、女子生徒については、納得できない加害者側の過ぎた行動等があり、処分者を出すことになってしまった。	D
自己評価	(評価) B (根拠) 「相手を思いやれる」「他人の心の痛みがわかる」人間になれるように、常日頃から接しているつもりであるが、前述の通り処分者を出してしまった。しかも3年生のこの時期であるのが、非常に残念であった。今後も生徒の心に響くような指導を心掛けたい。	C

↑ 評価基準
 ↓ A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
 B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
 C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	(評価) B	(意見) ・具体的な取り組みがあったにもかかわらず目標達成に至らなかったのは残念だった。反省すべきところは反省し次年度へ活かして欲しい。	C
------------	-----------	---	---

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	現状に満足することなく基本的生活習慣の更なる確立に向け、全職員が一丸となり指導に当たる。 いじめに関しては訴えの有無に関わらず、常に生徒の目線に立ち職員間でばらつきのない指導を心掛ける。		A
-----------------------	--	--	---

評価領域	進路指導部
------	-------

重点目標	将来の生き方・生活のしかたを考えさせ、主体的に自己の進路を決定させ、志望を達成させる。	P
現 状	多くの生徒はインターンシップ、進路ガイダンス、校外進学相談会などに積極的に参加することで、自分の進路目標を具体的にし、実現に結びつけている。一方、進路志望先を最後まで主体的に絞りきれない生徒も多くいる。また、基礎学力やコミュニケーション能力についても、学年が上がるにつれて向上はするものの、十分身に付いていない生徒が多いのが現状である。	
具体的な目標	(1) 生徒の人生設計や職業観・勤労観など望ましい生き方を確立させる。そのためにHR活動や総合的な学習を充実させる。 (2) 学力向上のために、補習授業を強化する。 (3) 社会生活に必要な基本的な生活習慣を確立するために指導の充実を図る。	
目標達成のための方策	(1) いろいろな講演や体験活動により人生設計を考えさせる。 (2) 平日、放課後の補習を計画的、継続的に実施する。 (3) インターンシップなどの活動により、基本的習慣、規範などを徹底する。	
具体的な取組状況	(1) 進路講演会、進路別ガイダンス、進路講話（社会人、自衛隊）、外部講師による模擬面接、県南職場研修事業、インターンシップとその事前・事後指導、職場見学、ふるさと企業紹介事業、職業別ガイダンス、合格体験発表会、長期休業中の補習等を実施した。 (2) 上記の計画的な取り組みの他、小論文や作文、面接指導を全職員が協力し指導している。	D
達成状況	全職員の協力のもと、講演会、ガイダンス等の進路行事がスムーズに行えた。また、3年生の進路実現に際しては、面接や小論文、作文指導を全職員であたり、全員の内定、合格に至った。	
自己評価	(評価) A (根拠) 進路講演会により過酷な環境でも生きぬくことの大切さを学んだ。また、進路講話、進路ガイダンス、職場見学等の事業により今まで知らなかった職種について学ぶことができ、進路に対しての意識が高まった。 3年生においては、複数回受験が必要な生徒が例年より多くいたが、主体的な進路決定がなされ合格に至った。 年々、就職活動が厳しいと思われる生徒が増えている。次年度以降、学年と連携し療育手帳の取得を勧めたり、ハローワークと連携し就職支援を進めるなどの手立てを講じていきたい。	C

↑
評価基準
↓

A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	(評価) A	(意見) ・ 保護者との連絡を密に進路指導をお願いしたい。素晴らしい取組を今後も継続してほしい。講演、体験活動への参加だけでなく、その消化状態の確認も必要である。	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	講演、体験活動→記録→感想→保存 というサイクルができるよう、キャリアノート等を作成すれば、個人でのフィードバックが可能になり、3年次の進路活動にも役立つと思われる。極力やりっ放しにならないようにしたい。		A

評価領域	特別活動部
------	-------

重点目標	(1)心身の発達、個性の伸張、集団の一員としての資質を育む (2)自主的・主体的な生活態度を育成し、たくましく生きる力を育む	P
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度は大幅な生徒減という実情を考慮し、学校行事運営の見直しをする。 ・ボランティアは本校の特色として根付いてきているが、更に前面に出し、生徒が能動的に活動できる場を増やせればと思っている。 <p>(1) まだ大きな行事が実施前なので具体的な成果等は計り兼ねるが、昨年までの現状では、個人差はあるものの、運動会、球技大会等の行事を通して、少しずつ醸成されているものと思われる。特に3年生はこれまで積み上げてきた経験と自覚から自分たちで行事を作っていく姿勢が見られた。</p> <p>(2) 例年どおりボランティア活動への積極的な参加が見られるが、生徒減の影響で参加者数は減少している。今後、学校祭等では生徒減の影響で一人一人の負担が大きくなるが、それぞれが複数の役割をこなしていけるかが課題である。</p>	
具体的な目標	(1) 学校行事や生徒会活動、ボランティアに積極的に参加する態度の育成 (2) 部活動の活性化	
目標達成のための方策	(1) 生徒会や各委員会からの広報活動を活発に行い、生徒の手で行事等を作り上げるという意識を持たせる (2) 各種学校行事等を通して、学校の代表としての自覚を促す。広報活動により学校全体へ周知する	
具体的な取組状況	(1) 雄勝高校として最後となった勝高祭では、生徒会執行部を中心にリサイタルやカフェなど3年生が主体的に盛り上げた。また、球技大会では、地域住民との交流を目的に保健体育委員会が主となってグラウンドゴルフ大会を企画・実施して成功を収めることができた。	
達成状況	(1) 学校行事に地域交流のイベントを組み込んだり、地域のボランティア活動へ関わることで生徒が地域社会に関心を持ち、理解に努めることができた。また、生徒自らがイベントの企画・運営にも携わり主体的に参加する姿勢を養うことができた。	D
	(2) 生徒数減の影響を受けながらも、壮行式等の規模は維持し、各部活動の活躍が見える形で広報活動も行った。	
	(1) 学校行事に地域交流のイベントを組み込んだり、地域のボランティア活動へ関わることで生徒が地域社会に関心を持ち、理解に努めることができた。また、生徒自らがイベントの企画・運営にも携わり主体的に参加する姿勢を養うことができた。	
	(2) 毎年のように部活動が減少していく中、既存部の活躍が学校全体の活性化に寄与している。特に、陸上競技場部は3年生が引退して部員が一人となったが、秋田県新人大会で投てきの種目において上位入賞を果たし、東北大会に出場した。	

自己評価	(評価) A	(根拠) 管理職からの適切な指導のもと、これまでにない地域との交流を図ることができ、生徒にとって新たな学びの場を発見することができた。このような今年度の取り組みは貴重な経験であり、来年度以降、地域校の目玉として実践していきたい。	C
------	-----------	--	---

↑
評価基準
↓

A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	(評価) A	(意見) ・初めての試みもあり大変だったと思うが、一定の成果に結びつくことができ嬉しく思っている。来年度以降も生徒の能動性を高められるよう、引き続き工夫しながら取り組んでほしい。	C
------------	-----------	--	---

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	生徒の能動性を向上させるためには、生徒目線に立った考え、アイデアが必要である。そのためにも生徒との会話を重んじて、生徒自らが動き、達成感を得られるような活動を一つでも多く実践することが必要である。今年度の経験を踏まえながら地域社会とも連携を深め実践していかなければいけない。		A
-----------------------	---	--	---

評価領域	保健部
------	-----

重点目標	心身のバランスの取れた実り豊かな学校生活を過ごさせるとともに、他人を思いやる心を醸成する。
------	---

現 状	<p>保 健：保健室利用の生徒は、1日平均1～2人。理由は頭痛、腹痛、切傷、打撲、突き指などである。内科的症状を訴えて来室する生徒の中には、心的要因を抱えている者もいる。</p> <p>特別支援：サポートが必要と思われる生徒が年々増加傾向にある。高等学校特別支援隊等外部との連携を図るとともに、各種研修会への参加、職員研修会の実施等、職員の研鑽を積んでより良い対応を心がけるよう努力している。特別支援コーディネーターを中心に、学習サポーターの力も借りながら全職員で指導にあたっている。</p> <p>教育相談：面接週間やLHRでの面談等、必要に応じて十分な相談の機会を設けている。また、スクールカウンセラーによる面談を月1回程度実施している。</p>
-----	---

具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> (1) 心身ともに健康的な生活の推進 (2) 校内の環境整備の推進 (3) 教育相談、特別支援の充実
--------	--

目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> (1) ①各学年部との連携推進 ②「保健だより」の定期的な発行 ③保健講話の実施、健康診断の事後指導、健康相談の充実 (2) ①学校安全点検の実施と事務室への報告、連絡、相談 ②保健体育委員を中心にした校内美化活動と啓蒙活動 (3) ①学年部と教科担任、学習サポーターとの連携 スクールカウンセラー、行政機関、医療機関等との連携 ②特別支援校内委員会の開催 ③職員研修会の実施
------------	--

具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> (1) 月1回の保健だより発行、薬物乱用防止講話や1年生への救急救命講習の実施の他、健康診断個人結果のお知らせを生徒全員に配付し、自身の健康に関心を持たせるようにした。 (2) 安全点検を奇数月に実施し、事務部と連携して迅速な対応をした。大清掃では保健・体育委員が清掃チェック表を用いた活動を行った。 (3) SCによる講話を1・2年生に実施した。職員への特別支援に関する研修会の実施や各種研修会に参加しての情報提供を行った。
----------	---

達成状況	<ul style="list-style-type: none"> (1) 学年部との情報交換や、保健室来室者への指導、適切な相談活動により、昨年度より来室者を減らすことができた。 (2) 学期末の大清掃では、清掃チェック表を用いて生徒が主体的に清掃活動を行うよう促すことができた。 (3) 高等学校特別支援隊との連携により、WISC検査の実施や研修会の開催など、特別支援の充実を図ることができた。
------	---

P

D

自己評価	(評価) A	(根拠) 特別支援や教育相談に関する研修会に参加し、職員会議などで、保健部以外の職員にも周知する事ができた。また、特別支援隊に依頼して、1年生対象者にWISC検査を実施し、対応についてアドバイスをいただいた。 1年生に不登校が心配される生徒が多かったものの、学年部や教科担任、学習サポーター等との連携により、保健室利用は少なく、長期間欠席する生徒もいなかった。	C
------	-----------	--	---

↑
評価基準
↓

A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	(評価) A	(意見) ・ 取り組みに対する結果が出ているので、引き続き個々に合わせたきめ細かい対応を期待する。特別支援隊以外の外部機関との連携実績があれば教えてほしい。	C
------------	-----------	---	---

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	職員数が減少する現状ではあるが、今年度のように個々に合わせた対応（生活面、学習面、進路指導等に活かせるもの）を今後も続けていく努力をする必要がある。そのためには、他分掌との連携をより一層強くしていかなければならない。特別支援隊以外の外部機関との連携については必要に応じて進めていきたい。		A
-----------------------	---	--	---

評価領域	図書・視聴覚部
------	---------

重点目標	(1) 利用しやすい図書館づくり (2) 読書を通じた思いやりの心の育成と品性の陶冶 (3) 情報・視聴覚機器の活用	P
------	--	---

現 状	<p>図書</p> <p>(1) 県立図書館から、テーマごとのセット貸出を適宜利用している。1セット約3ヶ月の期間で昨年度は常に5セット程度借りて生徒昇降口に設置した。また雄勝図書館から毎月50冊の貸出をお願いしている。図書部ができて組織的な活動を行っている。朝読書用の本を借りる生徒もいるが、利用者は多くはない。</p> <p>(2) 朝読書を継続して行っている。今年度も読書感想文コンクールや読書感想画コンクールへの応募をする予定である。</p> <p>視聴覚</p> <p>(3) 視聴覚教材を活用した授業が効果的に行われている。</p> <p>(4) 業務系・学習系とも校内LANが機能している。</p>
-----	--

具体的な目標	(1) ①図書館の環境整備 ②図書部および図書編集委員会の活動の活性化 (2) 蔵書や貸し出し本のPR活動の実施 (3) IT・視聴覚機器を活用した授業の支援
--------	--

目標達成のための方策	(1) 新着図書等の情報収集 (2) 図書館報「小町草子」の発行 (3) 県立図書館・雄勝図書館との連携 (4) 朝読書や読書感想文などの実施 (5) 新しいIT・視聴覚機器の情報収集 (6) 授業における図書利用の推進
------------	---

具体的な取組状況	(1) 雄勝図書館、県立図書館からの定期的な貸出本の利用。 (2) 朝読書の実施 (3) 図書館だより「小町草子」による新刊や貸出本を紹介した。 (4) ホームページを適宜更新、業務系・学習系LANの整備	D
達成状況	(1) 県立図書館の貸出本は、新しいシリーズを積極的に借り、昨年度と異なるテーマで様々な本を生徒や職員に紹介できた。 (2) 学年部の協力もあり朝学習が継続できている。 (3) 新刊や貸出本の紹介が適宜行われた。 (4) パソコン室の利用が調べ学習のために十分に活用された。	

自己評価	(評価)	(根拠)	C
	A	<p>1 県立図書館からの貸出本が今年も生徒玄関に設置され手にとりやすい環境で、生徒や職員ともに利用することができた。季節や学校生活に合わせた様々なテーマの本を紹介することができた。</p> <p>2 朝読書の継続により、落ち着いて学習に取り組む姿勢が確立されている。また読書時間の少ない生徒が多いので、この時間の積み重ねで基礎学力の向上や読解力の定着などを根気強く図っていきたい。</p> <p>3 図書編集委員と図書部の生徒が組織的に活動し、図書</p>	

	<p>館整備が行われた。</p> <p>4 パソコン室が授業や調べ学習で、十分に活用された。</p> <p>5 職員のIT機器のサポートが適切に行われた。</p>	
--	---	--

↑
評価基準
↓

A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
 B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
 C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	(評価) A	(意見) <ul style="list-style-type: none"> ・取り組みの成果が出ていると思われるので、継続してほしい。 ・具体的な成果指標と達成度があれば教えてほしい。 	C
------------	-----------	---	---



自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<p>今年度行ってきた朝読書や県立図書館、雄勝図書館との連携は、今後も継続していく予定である。朝読書に関して、読書記録等のメモ作成や、読んだ本の内容紹介やまとめの時間の設置を検討したい。</p>	A
-----------------------	---	---

令和元年度 地域連携ボランティア活動状況

(区分:①福祉系 ②地域連携部 ③全校)

実施日	内容	区分	参加人数
4月14日	桜堤防整備事業枝拾い	②	6
4月20日～5月1日	おしら様桜観光ボランティア	③	97
6月9日	小町まつりボランティア	③	59
7月13日	川遊び体験教室ボランティア	②	9
7月28日	グループホーム四季の里夏祭りボランティア	①	3
8月8日	杏林大学連携事業	②	2
8月8日	雄勝大花火大会ボランティア	②	2
2月1日	かだる雪まつりボランティア	②	13
	(延べ)	合計	191

【今後の予定】 なし